

教界ニュース

外国人の安否情報が欠落

被災地の弱者支援を訴え

第15回外登法問題国際シンポ

被災地の外国人に支援の手が届いていない。外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会は、「東日本大震災と外国人」・韓・在日教会の宣教課題」をテーマに7月25、26日、第15回外登法問題国際シンポジウムを、東京・千代田区猿樂町の在日韓国YMCAで開催。その際の発題・協議の中で、東日本大震災の被災地では外国人の安否情報が困難を極め、支援の手が高齢者や子ども、障がい者、外国人など「震災弱者」のところまで届いていないことが取り上げられた。

同シンポジウムは日韓 いて協議した。のNCC関係の人権や平 報告で在日韓国人問題 和に関わる機関が協力。 研究所の佐藤信行氏は、 日本在日教会から31人、 「日本社会は90年代以 韓国教会から8人が参加 降、多国籍化・多民族化 のほとんどは日本に生活 し、発題と共に被災地で が進む半面、諸外国では 基盤をもっているが、多 言語による正確な情報伝 設けられている基本的な

人権法制度が未整備。そ うした中で東日本大震災 が起きたために、「永住 者」「日本人の配偶者等」 のほとんどは日本に生活 基盤をもっているが、多 言語による正確な情報伝 設けられている基本的な

被災5県に住んでいた 人と結婚して暮らしてい 在日韓国・朝鮮人の15% たフイリピン人、タイ人、 近くが65歳以上の高齢者 中国人、韓国人の女性た だ、その多くが無年金で ちが多数いたが、これら 放置されてきたとし、被 災地ではとりわけ在日韓 国・朝鮮人の高齢者の自 別して孤立しているケー スも多くあると報告した。 立生活と介護が大きな課 題となってきた点も 共同声明では「震災発 指摘。嫁不足に悩む農村 生から今日までの報道に おいて、欠落してきたも 援を行う、②日本人と結

の被災した外国人の安 否情報です。その事実は、 日本社会が外国人住民を 日常的に周縁化してきた ことを物語っている」と 確認。各教派・団体、各 市民団体、各関係機関の 支援活動と連携し、「①被 災した在日韓国・朝鮮人 高年齢者に対して、生活支 援を行う、②日本人と結

婚あるいは死別し、孤立 けての説明と手続きを行 うこと、②震災復興政策 の策定と実施において は、これまでの経済成長 マーチン・ジェント氏(つ 主義をやめ、被災者一人 ひとりの住まいと生活の 再建を第一とする地域社 会の復興、その中の外 国籍の子どものための就学 確保などを行う」と表明 した。

韓 国ソウルのオンヌリ 教会主任牧師ハ・ヨンシ ョ氏が8月2日朝、急性 脳出血により天に旅立っ た。常に病気を闘い続け 晩年は週3回4時間の透 析を受けながらの奉仕だ ったが、日本に生活の拠 点を移し最期まで日本宣 教に情熱を燃やした。2 007年からの韓流文化 伝道イベント「ラブ・ソ ナタ」にも衝撃を受けた が、2006年から始ま った24時間衛星放送「C GNTV」は日本の健全 な教会成長に計り知れな いほどの貢献をしている だが、これらオンヌリ 教会が提供してきたプロ グラムを日本側が十分に 用いたかという疑問が 残る。オンヌリ教会はあ くまでも日本の教会に仕 える姿勢で活動が続け てきたが、どうそれが評価 されているのか。日本か らオンヌリ教会へ研修に 行った青年牧師の述懐が ある。「ハ先生が研修期間 中、私のところへ来て、 『日本人をなかなか救せ ばならないのに』◆日本 の救霊に命をかけた韓国 人牧師の生涯を通して、 『こんなにも神は日本を 愛しておられる』と思っ たい。神の恵みを再発見 することからすべては始 まるのだ。

アルコール依存回復の家

青十字サマリヤ館 老朽化で改築募金



青十字サマリヤ館ではこれまでに300人以上の依存症 男性を受け入れ生活を共にしながら社会復帰を促した

アルコールや薬物、ギャンブル依存症により、お金も健康も、仕事も家族も全部失ってしまった。そんな男性を、札幌市南区藤野にある中間施設「社会福祉法人青十字サマリヤ会 青十字サマリヤ館(齊藤和夫館長、札幌市南区藤野)は、これまで300人以上を受け入れ、社会復帰を支援してきた。青十字サマリヤ館は75年、OMF宣教師R・カニングハム夫妻により、アルコール依存者の社会復帰施設として札幌市内



ホーム「青十字サマリヤ館」が建てられた。

アルコールや薬物、ギャンブルを必要としない生活を続けていけるよう訓練し、社会復帰することを目指す。そのプログラムとして月曜日から土曜日までの午前午後各2時間、回復者のスタッフによるミーティング、個別相談、家事や清掃など館内外の作業が行われ、夜は札幌市内で開か

ホーム「青十字サマリヤ館」が建てられた。ここではスタッフとの共同生活を通し、入館者自らが依存症であることを認め、アルコール・薬物・ギャンブルを必要としない生活を続けていけるよう訓練し、社会復帰することを目指す。そのプログラムとして月曜日から土曜日までの午前午後各2時間、回復者のスタッフによるミーティング、個別相談、家事や清掃など館内外の作業が行われ、夜は札幌市内で開か

苦しみやスタッフもまた経験している。苦しいのが分かるから助けてあげたい。でも、ここで助けてしまおうのを知っているから、あえて助けないことを求めている。退館後はアフターケアとして、一定期間ミーティングへの出席、市内で開かれている自助ミーティングへの参加、木工やステンドグラス、ジャムなどを作っている「ふじの共同作業所」への通所が勧められている。「神様に救われたと同じくらいうれい」と齊藤さんは言う。藤野福音キリスト教会(小林基人牧師)の存在も大きい。昼、夜の食事は同教会のメンバーが炊き立ての食事として奉仕する。小林牧師の祈りとア

教の現状と課題」について、OMF宣教師で青森県で20年の奉仕歴があるマーチン・ジェント氏(つ主義をやめ、被災者一人ひとりの住まいと生活の再建を第一とする地域社会の復興、その中の外国籍の子どものための就学確保などを行う」と表明した。

2011 宣 教 青 森 フォーラム

第5回日本伝道会議に出席した教職者の祈りから、青森で全県を網羅した教会会議が開かれた。7月18、19両日、青森市浅虫温泉で開催した「2011 宣 教 青 森 フォーラム」は、12・12から「青森の3K(希望・患難・祈禱)」について奨めた。原田氏はヨハネ15章から「青い森を内から育てよう」と講演。プレイズCA・あすなろ福音キリスト教会員、川村敬子(JEICA・あすなろ福音キリスト教会員)、川村敬子(JEICA・あすなろ福音キリスト教会員)、川村敬子(JEICA・あすなろ福音キリスト教会員)の各氏が発題。青森県の協力伝道のあり方、青森県特有の教会性、青森伝道の現状と将来などについて、議場からの質疑応答を交えて活発に意見した。交流の夕べでは、いくつかの地域教会と、フォーラムを支えてきた教団・教会・団体の青森県での働きが紹介された。2日目は「青森県の宣教の現状と課題」について、事前アンケートを元に分ち合った。閉会には事務局局長の署名昌利氏(JEICA・あすなろ福音キリスト教会員)が、将来に向けて熱く希望を語った。東頭実行委員長は「当地では画期的な行事で、ただの会議に終わらず豊かな交わりと分かち合いがあり、恵みのうちにそれぞれの任地に戻りました」としている。参加者の多くから、ぜひ回を重ねてほしいとの声が寄せられているという。

マレーシア宗教局が 教会の救済活動牽制 【JCJ】東京「マレーシア・セラゴン州州ベタランジャヤのタマンサラ・ウタマ・メソジスト教会が8月3日開催していた夕食会に同州イスラム宗教局が1時間以上にわたって捜索した。夕食会は難病や天災被害者への支援を行っている非政府組織がボランティア・リーダーや支援者をね



韓国ソウルのオンヌリ 教会主任牧師ハ・ヨンシ ョ氏が8月2日朝、急性 脳出血により天に旅立っ た。常に病気を闘い続け 晩年は週3回4時間の透 析を受けながらの奉仕だ ったが、日本に生活の拠 点を移し最期まで日本宣 教に情熱を燃やした。2 007年からの韓流文化 伝道イベント「ラブ・ソ ナタ」にも衝撃を受けた が、2006年から始ま った24時間衛星放送「C GNTV」は日本の健全 な教会成長に計り知れな いほどの貢献をしている だが、これらオンヌリ 教会が提供してきたプロ グラムを日本側が十分に 用いたかという疑問が 残る。オンヌリ教会はあ くまでも日本の教会に仕 える姿勢で活動が続け てきたが、どうそれが評価 されているのか。日本か らオンヌリ教会へ研修に 行った青年牧師の述懐が ある。「ハ先生が研修期間 中、私のところへ来て、 『日本人をなかなか救せ ばならないのに』◆日本 の救霊に命をかけた韓国 人牧師の生涯を通して、 『こんなにも神は日本を 愛しておられる』と思っ たい。神の恵みを再発見 することからすべては始 まるのだ。